

ごみ熱分解・燃焼溶融施設各部の紹介

【 受 入 供 給 設 備 】



ごみ計量棟
搬入車で運ばれてきたごみを計量します。



プラットフォーム
搬入車がごみを投入する場所です。



ごみピット
運び込まれたごみは一時ごみピットに貯留されます。ここにはおよそ700トンのごみを貯留できます。



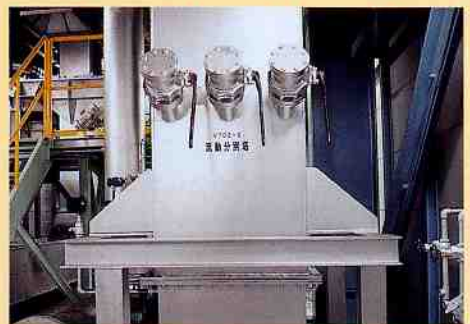
ごみ破砕機
効率よく安定した熱分解を行えるように、ごみを一定の大きさに細かく砕きます。

【 熱 分 解 設 備 】



熱分解ドラム
ごみを空気のない状態で約1時間、450℃で蒸し焼きにして熱分解ガスとカーボンに改質します。

【 分 別 設 備 】



流動分別塔
比重差を利用して、熱分解カーボンと不燃物の中から比重の軽い熱分解カーボンを分離回収します。



カーボン貯留ホッパ
燃焼溶融工程へ送るカーボンを貯留します。



高温空気加熱器
燃焼用排ガスから熱回収を行い、熱分解の熱源となる高温空気を作り出します。



冷却ドラム
熱分解ドラムから出た約450℃の熱分解カーボンと不燃物を約80℃まで冷却します。



中央操作室
ごみ熱分解・燃焼溶融施設にある機器の運転状況を監視・操作するところです。



クレーン操作室
ごみピットに貯留されたごみをクレーンを操作してホッパへ投入します。

【 燃 焼 溶 融 設 備 】



燃焼溶融炉
熱分解ガスとカーボンにより約1300℃の高温で完全燃焼させ、溶融スラグを作ります。



スラグホールから流れ落ちる溶融スラグ
燃焼溶融炉で灰分を溶融し、溶融スラグがスラグホールより排出されます。

【 余 熱 利 用 設 備 】



蒸気タービン・発電機
廃熱ボイラで発生した蒸気を利用して蒸気タービンを動かし発電します。



白煙防止用送風機
蒸気を使用して加熱した空気を排ガスに混合し、白煙の発生を防止します。



廃熱ボイラ
発電や給湯などに利用するための蒸気を作ります。

【 排 ガ ス 冷 却 ・ 処 理 設 備 】



減温塔
排ガス中に水を噴霧して、約300℃の排ガスを約170℃に冷却します。



除塵用バグフィルタ・脱塩用バグフィルタ
除塵用バグフィルタで排ガス中の飛灰を取り除き、脱塩用バグフィルタで塩化水素と硫酸化物を除去します。



触媒反応塔
排ガス中の窒素酸化物とダイオキシン類を除去します。



誘引送風機
有害なものを取り除いたクリーンな排ガスを煙突に送り出します。